



特集 世田谷区名誉区民顕彰

中川李枝子先生 インタビュー

## 『みんな本が好き』

＼ 駒澤大学の大学生が /

### おはなし会やっています

#### イベントレポート

- ・イラストレーター佐竹美保さんの挿絵と装画ができるまで
- ・こわ〜いおはなし会
- ・落語と読書 読書の秋の講演会
- ・子ども読書リーダー（子ども司書）講座
- ・世田谷文学館出張展示 水丸さんのがたんごとん展

#### NEW 新着図書案内

ドラッグストアで買える  
あなたに合った薬の選び方を  
頼れる薬剤師が教えます

世界のふしぎな色の名前

遺跡に学ぶ考古学クッキング

ラジオ保健室

## 中川李枝子先生 インタビュー

# 『みんな本が好き』

世田谷区は、令和4年10月1日に区制施行90周年を迎えるにあたり、4名の方を世田谷区名誉区民として顕彰いたしました。

今回は、その中でも世田谷区立図書館で多くの著作を所蔵している中川李枝子先生の特集です。先生へ聞いてみたいことを、図書館で活動している子ども読書リーダーや利用者から募集し、その中からいくつかの質問について、電話で直接お聞きすることができました。

先生の幼少期のお話から作品作りまで、楽しいお話をたくさんしてくださいました。その一部をご紹介します。

取材日：2022年9月5日

### 中川先生の絵本の思い出を教えてください

幼稚園でもらう『月刊キンダーブック』（※1）を読むのが楽しみでした。私は1935年生まれで、幼稚園に行っていたのは1940年ごろ。その頃は、まだ太平洋戦争が始まっていないので、幼稚園に行き『キンダーブック』を読めるぐらいの余裕があったのだと思います。絵本の原点が幼稚園の頃の『キンダーブック』で、それを読むために幼稚園に行っていたようなものです。

『キンダーブック』は1ページ目がその月の歌でした。川島はるよの挿絵が特に好きでした。幼稚園で先生に本を読んでもらった記憶はありません。親に本を読んでもらった記憶もなく、毎月もらう『キンダーブック』がもう楽しみで、楽しみで、誰もいないところで、本と私が一対一で、心ゆくまで『キンダーブック』の中に入っていくという感じでした。それが読書の最初の記憶。生まれた時から字が読めたようなつもりで、誰にも邪魔されずに読んでいました。

絵本に向き合っている記憶に、親とかは出てこないんですね。わたし個人と本との記憶です。本の記憶は残っていますが、誰に読んでもらったかは覚えてないですから。

### 『キンダーブック』以外に絵本の思い出はありますか

講談社の絵本は読んだ記憶があります。「リンカーン」「桃太郎」「一休さん」「はちかつぎひめ」を読みました。小川未明さんの童話集『赤い鳥』も読んだ記憶があります。

### 小学生の時の読書体験を教えてください

札幌へ疎開中に「明治大正文学全集」などを読んでいました。『赤い鳥』より『金色夜叉』の方が面白かったですよ。10歳の頃です。疎開した母の実家の祖父が国文学者で、家には文学全集や辞書がいっぱいありました。文学全集を読んでいて、わからない言葉があると辞書をひいて確かめていました。



①



②



③



④

江戸川乱歩も夢中で読みました。それが10歳ぐらいのときの記憶。「明治大正文学全集」を読んでいると、戦前の銀座の風景が華やかに描かれていて、ああいいなど。戦争のない時代に戻れる気がしました。

親戚のおばさんが読み古した児童書『赤い鳥』と近刊の漫画『のらくろ』を持ってきてくれて、『のらくろ』だけは私の大事な本だから返してね。」と言われました。祖父の家にはおじの中学時代の本もあって、その一冊が「富山房文庫の『世界童謡集』（※2）で今も大事な宝の一冊です。西條八十と水谷まさるが訳していたものです。そこで初めてマザーグースに出会いました。

### 西條八十さんの魅力は何ですか

子どもが西條八十さんに魅かれるのは変かしら。子どもで西條八十さんを尊敬しているのって、そんなに頓珍漢なこととも思わないですけどね。

### 中学校時代の読書体験を聞かせてください

福島の中学校に上がって、そのころGHQの命令で学校に図書館が出来て、行っていた学校の美術室の片隅に図書コーナーができました。そこには毎朝のように通って『岩波少年文庫』（※3）に出会っていました。たちまち少年文庫に取りつかれました。岩波としても、少年文庫の出版を続けられるかどうかわからなかったそうですが、全国の中学校が買ったので出版を続けられたそうです。

### 先生が書かれている作品に登場する動物の種類はどうやって決めているのですか

特に意識はしていません。気分とかイメージで決めています。私が文章を書いて、妹（※4）が挿絵です。『いやいやえん』（※5）を書き始めた頃、妹は当時高校生、都立西高の美術部でした。そこには有名な先生がいて、美大を目指す子たちがいたようなところ。ただ、妹は美大を目指すとかではなく、趣味で描いていたようですけど。西高の文化祭に行ったとき、美術部の展示があって、みんなすごい絵、美大を目指しているんだなというようなすごい絵があるなかで、一つだけ「なんだかこれ違うぞ」みたいな絵が飾ってあって、それが妹の絵。画風はその当時から変わっていません。

### 作品のアイデアはどんな時に出てきますか

保育園での子どもたちの遊びからヒントを得ています。

## 先生は保育士さんでしたよね

学校（東京都立高等保母学院）（※6）にその後勤めることになった「みどり保育園」（※7）の求人広告が来て応募しました。「求む主任保母」と。本当は園長ぐらいになりたかったけど。応募者は私一人だけ。

## いつから保育士を目指していましたか

父が定期購読していた『遺伝』（※8）という雑誌があって、そこに「東京都立高等保母学院の紹介記事」（※9）が載っていました。ああ、こんな楽しそうな、面白そうな学校があるんだって。そういう縁があって、この学校に通いました。

## どんな保育士さんでしたか

広いらっぱと、青い空があれば、それだけで良かったです。当時の駒沢は建物もなく、広い原っぱだけがあるような場所でした。保育園は資材置き場を改築したような建物でした。園児は全員で35人くらい。規模としてちょうどいい感じでした。野っばらと空が見えて、声も出し放題で、誰からも苦情を言われることもなく。そこで、今日はなにで遊ぶ、喜ばせようと考えていたのが、アイデアの原点。著作の原点です。「給料をもらっては悪いよ。おまえも保育料を払ったら。」と父に言われました。

## 当時の子どもたちは本が好きでしたか

みんな本が大好きでした。特に『岩波の子どもの本』（※10）は良かったです。『ちびくろさんぼ』など傑作が揃っていましたからね。ちょうど、その頃、福音館書店が『こどものとも』（※11）を出し始めました。

## 今の子どもたちに伝えたいことはありますか

特にありません。子どもはみんな可愛くて。子どもよりもお母さんに伝えたい。私は子どもはお母さんが大好きだということを伝えたいです。



世田谷区で好きな場所はどこですか

駒沢公園です。「みどり保育園」は今の駒沢公園の中にありました。オリンピックのために整備され、保育園は住宅地に移転しました。



中川 李枝子  
(なかがわ・りえこ)

作家。1935年札幌に生まれる。東京都立高等保母学院卒業後、区内駒沢の「みどり保育園」の主任保母になる。1972年まで17年間勤めた。1962年に出版した『いやいやえん』で厚生大臣賞、NHK児童文学奨励賞、サンケイ児童出版文化賞、野間児童文芸賞推奨作品賞を受賞。1980年『子犬のロクがやってきた』で毎日出版文化賞受賞。主な著書に絵本『ぐりとぐら』シリーズ、『そらいろのたね』『ももいろのきりん』、童話『かえるのエルタ』、エッセイ『絵本と私』『本・子ども・絵本』。映画『となりのトトロ』の楽曲「さんぽ」の作詞でも知られる。2013年菊池寛賞受賞。『ぐりとぐら』は現在まで10カ国語以上で翻訳されている。

## 中川先生の代表作

・そらいろのたね ①	福音館書店	1967年
・こぶたほいくえん ②	福音館書店	2001年
・ぐりとぐら ③	福音館書店	1967年
・たんたのたんけん ④	学研	2021年
・いやいやえん	福音館書店	1962年
・子犬のロクがやってきた	岩波書店	1979年
・絵本と私	福音館書店	1996年
・本・子ども・絵本	大和書房	1982年

2013年に新版が出版

- ※1 月刊誌『キンダーブック観察絵本』はフレーベル館より1927年創刊。
- ※2 『世界童謡集』は西條八十、水谷まさるの訳編により富山房から1924年に出版。その後富山房百貨文庫として1938年と1991年に再販。
- ※3 『岩波少年文庫』は1950年創刊。
- ※4 山脇百合子さんのこと（旧制：大村）
- ※5 『いやいやえん』中川李枝子さく、大村百合子え、福音館書店、1967年
- ※6 当時港区にあった高校卒業生を対象にした都立の学校。1948年創立。
- ※7 今の駒沢公園内にあった保育園。
- ※8 雑誌『遺伝-生物の科学-』はエヌ・ティー・エスより現在も刊行中。中央図書館でも定期購読中。
- ※9 『遺伝-生物の科学-』1952年1月号
- ※10 『岩波の子どもの本』は岩波書店より1953年創刊。
- ※11 月刊絵本『こどものとも』は福音館書店より1956年創刊。

中川李枝子さんの実妹で絵本作家の山脇百合子（やまわき・ゆりこ）さんが、9月29日にお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

## 10代向け講演会

## イラストレーター佐竹美保さんの挿絵と装画ができるまで

8.7 SUN

挿絵画家の佐竹美保さんをお招きし、講演会を行いました。まずはご自身の幼少期のエピソードから、高校卒業後に出版社へ持ち込みを始めて絵の仕事につなげていった経緯を話されました。

次に、佐竹さんが手がけた原画をスクリーンに投影しながら、表紙や挿絵ができるまでのエピソードをお話してくださいました。

質疑応答の時間では、多くの手が挙がり、思ったように絵が描けない時は、紙を破って一から描き直していること、力はいらさないけど体力のいる仕事であることなどを教えていただきました。

40年間絵の仕事をしてきた佐竹さんの仕事へ取り組む姿勢が、10代の参加者にも伝わったようです。持参して下さった数十点の原画は、開演前と閉会後に参加者が自由に見ることができ、盛りだくさんの講演会となりました。

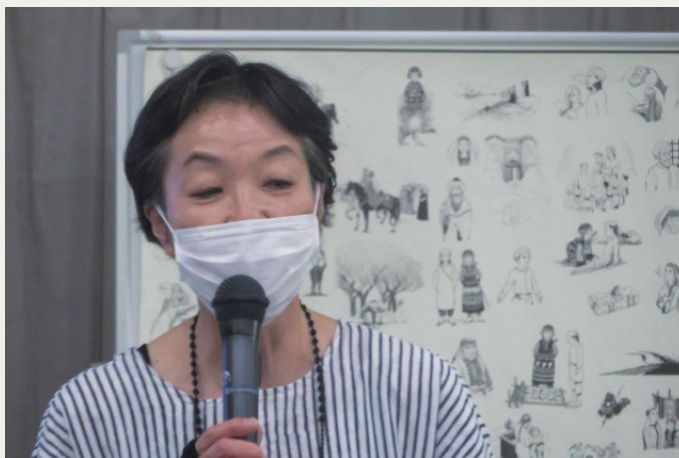
## 佐竹さんがイラストを担当された代表作



ハリー・ポッターと賢者の石  
作：J.K. ローリング  
訳：松岡 佑子  
静山社



十年屋 (1)  
時の魔法はいかがでしょう？  
作：廣嶋 玲子  
静山社



お話しいただいたイラストレーターの佐竹美保さん



持参して下さった数十点の原画



## こわ～いおはなし会

8.11 THU

「こわ～いおはなし会」を開催しました。

当日は、絵本や紙芝居などを取り入れたプログラムで行いました。会場の子どもたちは臨場感あふれるおはなしにすっかり聞き入っている様子でした。



**こわ～いおはなし会**  
2022年8月11日(木) 午後3:30～4:15  
場所：中央図書館3階 『ざんが』  
主催：世田谷区立中央図書館  
【今日おはなしをする本の紹介です】

『くら～いおはなし』  
ルース・ブラウン：作・絵 須崎真穂子：訳 (絵文学社)  
書籍番号002809613

『子そだてゆうれい』  
桜井信夫：文 若山憲：画 (ほるぷ出版)  
書籍番号002505557

『フォックス氏』  
ジェイコブズ：作 木下順二：訳 瀬川康男：絵  
書籍番号002374413

『ついでくる』  
加藤：作・絵 (教育画劇)  
書籍番号006283445

こわ～いおはなし



子そだてゆうれい  
文：桜井信夫  
絵：若山憲  
ほるぷ出版

## 落語と読書 読書の秋の講演会

司書資格を持つ落語家の入船亭扇治師匠

9.17 SAT

司書資格を持つ落語家の入船亭扇治師匠をお招きし、講演会「落語と読書」を開催しました。

前座として、黒猫が小唄をする師匠自作のアニメーションが上映され、黒猫のユーモアな唄に参加者は魅了されていました。

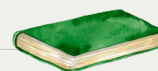
一席目の演目は、古典落語「時そば」です。蕎麦屋台で起こる滑稽唄で、師匠が扇子で蕎麦をすすめる姿に会場の人が引き込まれました。二席目の演目は、古典落語「寝床」、下手な義太夫を他人に聞かせたがる家主が起こす騒動唄です。

また、「江戸のトリビア」についてのトークでは、江戸の時間の数え方や当時使用していた鐘について、スライドショーを用いてお話され、最後に古典落語の舞台であ



る江戸時代の情緒を伝える小説を紹介していただきました。

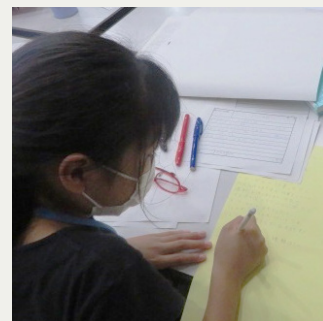
来場者は、2時間たっぷり江戸の文化に楽しい時間を過ごしました。



## 子ども読書リーダー（子ども司書）講座

7.23 SAT / 7.27 WED

2日間にかけて第11回「子ども読書リーダー（子ども司書）講座」を開催しました。図書館の本を活用した調べ学習や図書館見学など、読書好きの子どもたちに楽しんでもらえる充実した活動でした。



図書館の本を活用した、調べ学習の方法などを学びました

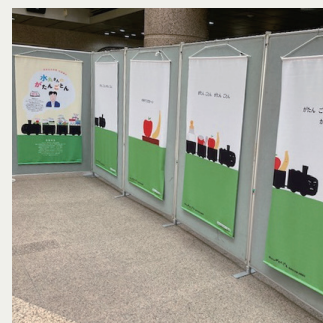


## 世田谷文学館出張展示

### 水丸さんのがたんごとん展

7.28 THU - 8.25 THU

安西水丸さんの絵本作品をパネル化した「水丸さんのがたんごとん」展を世田谷文学館にご協力いただき、夏休み期間中に開催しました。絵本から飛び出した水丸さんの作品を全世代の方にお楽しみいただきました。



絵本から飛び出した水丸さんの作品



がたんごとん がたんごとん  
福音館書店



## ドラッグストアで買えるあなたに合った薬の選び方を頼れる薬剤師が教えます

著：児島悠史  
羊土社  
書誌番号：006416080

健康管理に対する関心が急速に高まっているここ数年、セルフメディケーション税制や、健康サポート薬局等の支援の制度なども始まり、健康や医療などに関する正確な知識を得ることは不可欠となっています。まちで売られている薬に関する知識もその一つです。

本書は、薬剤師である著者が症状別に12章に分けて、市販薬について解説しています。各章に、「ここが知りたい!」、 「注意を必要とする人」の項目を設けて、使い方、選び方や注意点などのアドバイスが掲載されています。さらに、役に立つ情報がコラム形式で豊富に掲載されていて、楽しく読める構成となっています。まちのドラッグストアにならんでいる薬について知るための参考となる1冊です。



## 世界のふしぎな色の名前

著：城一夫  
著：カラーデザイン研究会  
絵：killdisco  
グラフィック社  
書誌番号：006395224

人間は何色くらいの色を見ることが出来るのでしょうか。一説には80万色とも、100万色を超えるとも言われています。簡単な赤、黄、緑などだけではなく、世界には様々な表現をした色の名前があります。聞いただけでは、どんな色かわからないような色の名前もあります。「太陽の血」と言われたらどんな色を想像しますか？私は、想像した色と全く違っていて驚きました。しかし、その名前となった由来を知ると納得することができました。

この本には、世界の不思議な色の名前とその由来や説明がたくさん載っています。つい笑ってしまうような話や感動する話、ちょっと怖い話まで。目次の名前からどんな色なのか予想しながらお楽しみください。



## 遺跡に学ぶ考古学クッキング

クロアチア鉄器時代の創作料理と3千年の滋味  
青銅器時代の炭化パン  
縄文時代のクッキー状炭化物

著・編：海田芙柚悱  
三恵社  
書誌番号：006406887

アドリア海をはさんでイタリアの向かい側にあるクロアチアは、古代からの歴史ある地域です。本書は約2800年前の前期鉄器時代の遺跡から発掘された土器や食品、あるいは中世の書物などから当時の人々の食事を想像・再現したものです。イラクサなど日本では殆ど馴染みのない食材も多用されていますが、色鮮やかな料理はどれも美味しそう!

前期鉄器時代の日本は縄文時代晩期／弥生時代前期にあたるということで、縄文人の食生活考察も記述されています。なにかと慌ただしい現代ですが、本書にて、東西古代の暮らしに想いを馳せてみるのは如何でしょうか。



## ラジオ保健室 —10代の性 悩み相談BOOK—

著：NHK「ラジオ保健室」制作班  
リトルモア  
書誌番号：006379929

包括的性教育という言葉が目目されています。生殖に関する性教育だけに留まらず、自分の性自認、ジェンダー問題、性暴力までを含めた広義の性教育で人権的な内容を含んでいる概念です。しかし、まだまだ子どもたちに正しい知識が届いていないのが現状です。

この本では、ラジオ番組に届いた10代の“悩んでいるけど、誰にも聞けないこと”に、専門家やゲストが相談者の気持ちに寄り添いながら答えます。正しい知識と情報は自分を守ってくれます。10代みなさんにぜひ手にとってほしい1冊です。この本は、10代の悩みにやさしく寄り添ってくれる本を集めた中央図書館の「SOSコーナー」にあります。悩みがあっても、なくても一度「SOSコーナー」をチェックしてみてください。



／ 駒澤大学の大学生が／

## おはなし会やってます

毎月第一土曜日、15時になると児童書コーナーは賑やかになります。  
駒澤大学松本ゼミの学生さんたちが子どもたちにお話会を開催しているのです。  
長年続く大学生の皆さんによる取り組み。子どもたちが飽きないように、  
毎回たくさん工夫をして、その工夫を先輩から後輩につないで続けてきました。

駒澤大学生によるおはなし会は世田谷区立中央図書館にて、毎月第一土曜日の15時から約30分間開催しています。絵本や紙芝居を子どもたちに読み聞かせをしたり一緒に手遊びをしたりします。

絵本は毎回、内容や長さを考えて大体2~3冊を選書しています。またどの絵本をどの順番に読むのか、どこでどんな手遊びを行うか、小さなお子さんでも飽きてしまわないように、おはなし会のプログラムを考えています。

絵本を読んでいる時、子どもたちが楽しそうに考えたり答えを言ってくれたりする姿を見るとこちらも楽しくなります。手遊びも同様に子どもたちの笑顔がみえると私自身も楽しく

手遊びをすることができます。子どもたちとコミュニケーションをとれることがとにかく楽しいです！

読み聞かせは実際にやってみると難しいものです。読み手が変われば物語の雰囲気も大きく変化します。この活動を引き継いでいく後輩たちには、自分なりの読み方を見つけてほしいと思います。特に手遊びでは自分自身が楽しむことが大切です。子どもたちを楽しませる気持ちも重要ですが、まずは自分が楽しく手遊びをする姿を見てもらうこと。そうして、参加者全員で楽しんでほしいです！



担当職員の吉田さん

中央図書館では色々な読み聞かせの会を開催しています。中でも大学生のみなさんのおはなし会は年齢が近いため、子どもたちもリラックスして楽しんでくれています！



お話会を担当されている駒澤大学松本ゼミのみなさん。  
左から岩本結夢さん、藤井麗美さん、長岡里咲さん。

### この日のおはなし会で読んだえほん



三びきのやぎの  
からがらどん  
絵：マーシャ・ブラウン  
訳：せたていじ  
福音館書店



どろんこハリ-  
文：ジーン・ジオン  
絵：マーガレット・プロイ  
・グレアム  
訳：わたなべ しげお  
福音館書店



しろくまちゃんの  
ほっとけき  
絵：わかやまけん  
文：森比左志  
文：わだよしおみ  
こくま社

## 図書館からのお知らせ

### 子どもの本の講座

## イギリスの児童文学

『ロビンソン・クルーソー』、『不思議の国のアリス』など、イギリスの児童文学作品には、私たちに馴染み深い名作が多くあります。これらの作品はなぜこんなにも愛され続けているのでしょうか？この講座では、イギリス児童文学の歴史や意味を紐解きながら、その魅力に迫ります。

講師 佐藤和哉（日本女子大学教授）  
開催日 1月11日（水）・18日（水） 午前9時半～11時半  
場所 中央図書館3階「ぎんが」  
定員 70名（要申込）  
申し込み 12月1日より15日まで  
オンライン手続き、または往復ハガキで受付。  
\*詳細はホームページ・ちらしでご確認ください。

### 子どもの本の講座

## 子どもの心を育む「むかしばなし」

「むかしばなし」には、子どもの心の成長への手がかりがいっぱい。子どもたちの生きる力を育む「むかしばなし」。そんな「むかしばなし」の世界へ誘います。

講師 内藤直子（東京子ども図書館）  
日時 2月8日（水） 午前10時～正午  
場所 中央図書館3階「ぎんが」  
定員 70名（要申込）  
申し込み 12月1日より15日まで  
オンライン手続き、または往復ハガキで受付。  
\*詳細はホームページ・ちらしでご確認ください。

### 子ども読書活動推進フォーラム

## 戦争と児童文学

大阪国際児童文学振興財団・統括専門員の土居安子さんと児童文学・文化評論家の野上暁さんをお迎えし、児童文学がどのように戦争を描いてきたか、児童文学は子どもたちにどのように平和や未来への希望を伝えているかについて語っていただきます。参加者との意見交換の時間もあります。

日時 2月18日（土） 午後1時半～4時半  
場所 中央図書館3階「ぎんが」  
定員 70名（要申込）  
申し込み 12月15日より1月14日まで  
オンライン手続き、または往復ハガキで受付。  
\*詳細はホームページ・ちらしでご確認ください。

### [ 編集後記 ]

図書館では、子どもたちに絵本の読み聞かせなどを行う『おはなし会』があります。私が、これまでに一番読んだ絵本は「そらいろのたね」かもしれません。それほど、大好きな絵本です。そして、その著者である中川李枝子先生を特集できた今号は、とても幸せでした。みなさんの好きな先生の1冊、1曲は何でしょう。また、絵本や児童図書は大人が読んで、いや、人生いろいろ経験してきた大人にこそ読んでほしい世界です。

今日は、貸出カウンターに行く前に、ちょっと、こどもコーナーを歩いてみるというのはどうでしょう。そして、気になる本を手にとり開いてみてください。児童文学、ぜひお試しください。

[Y.M]